

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

## ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

内容
<p>オーケストラおよび構成する楽器、歴史や成り立ちに加え、音楽鑑賞のポイントや聴きどころなどに関するレクチャーを交えながらミニコンサート(奏者3~4名)を実演することにより、本公演に際してオーケストラ鑑賞が初めてでも、親しみを持ってコンサートを味わえるよう、理解を深められることができる内容となっております。</p> <p>①オーケストラの仕組み、代表的楽器とその役割の紹介 図解を交えながら、演奏者自らによりわかりやすくお話しいたします。</p> <p>②曲目解説 小編成だからこそ、間近での鑑賞により演奏者に親しみを持っていただきます。</p> <p>③オーケストラや演奏者への質問コーナー 学校からのご要望に応じて実施いたします。</p>

タイムスケジュール(標準)
<ul style="list-style-type: none"><li>・1コマ目開始時間の1時間前学校入り(ご挨拶、準備等)</li><li>・小中学校ともに2コマ実施(学校の時間割により設定時間は様々)</li></ul> <p>[例] 小学校: 低学年1コマ 高学年1コマ=合計2コマ 中学校: 1~2年生1コマ 3年生1コマ</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<ul style="list-style-type: none"><li>・演奏者=3~4名</li><li>・スタッフ=1~2名</li></ul> 合計=4~6名

学校における事前指導
<ul style="list-style-type: none"><li>・一般的な鑑賞マナーなどの事前指導をお願いいたします。</li><li>・質問コーナーをご希望の場合は事前に内容をまとめていただけますと幸いです。</li><li>・ピアノを使う場合は連絡をします。場合によっては調律をお願いする場合があります。</li></ul>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 群馬交響楽団
公演団体名	群馬交響楽団

演目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」 (5分)</li> <li>・ シュトラウスII世／ワルツ《春の声》 作品410 (6分)</li> <li>・ 大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲 (15分)</li> <li>・ 選択コーナー (共演コーナー) ※下記 A. B. より選択             <ul style="list-style-type: none"> <li>A・一緒に歌おう (下記の中から選択)                 <ul style="list-style-type: none"> <li>「となりのトトロ」から さんぽ／子どもの世界／大きな古時計／夏 の思い出／翼をください／ビリーブ</li> </ul> </li> <li>B・指揮者体験コーナー                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校歌 (5分)</li> <li>・ ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 (3分)</li> <li>・ エルガー／愛のあいさつ 作品12 (4分)</li> <li>・ ビゼー／歌劇「カルメン」から 前奏曲、序奏、アラゴネーズ、間奏曲、 アルカラの竜騎兵、ジプシーの踊り (15分)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>※上記のプログラムは70～80分となりますが、設定時間に応じて抜粋で実施する事も可能です。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<p>合計=67名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出演者=60名 (指揮者・司会者含む)</li> <li>・ スタッフ=6～7名</li> </ul>

タイムスケジュール (標準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8時30分～10時 搬入開始、セッティング等</li> <li>・ 11時00分 合わせ練習開始 (必要な場合)</li> <li>・ 13時30分開演</li> </ul>
実施校への協力依頼人員
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーケストラが演奏する場所にシートを敷く場合は前日までにご準備をお願いいたします。</li> <li>・ パイプ椅子を100脚程度事前に演奏会場にご準備ください。</li> <li>・ 場合により終演後の楽器の搬出の補助をお願いする事があります。</li> </ul>

## 演目解説

### ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」

ロッシーニ（1792-1868）は、イタリア・オペラの作曲家の中でも最も人気のある作曲家でした。すでに20歳でオペラ作曲家として成功し、特に1820年代から30年代前半にかけては、全ヨーロッパ中で熱狂的な人気を集め、まさにヨーロッパ・オペラ界の中心人物でした。しかし、20年にも満たない期間に40曲近いオペラを作曲したのち、わずか37歳で突然オペラの世界から引退してしまいます。美食家としても知られた彼は、以後40年間は作曲活動からも遠ざかり、悠々自適な生活を送ったといわれています。

この中世のスイスの英雄を扱った《ウィリアム・テル》は、最後に発表されたオペラです。ドイツの文豪シラーの同名の戯曲から台本が作られています。序曲は「夜明け」「嵐」「静寂」「スイス軍の行進」の4つの部分からなり、本日はトランペットのファンファーレから始まる最後の部分が演奏されますが、これはスイスに平和をもたらした国軍の行進と民衆の歓喜の様子が描かれています。ロッシーニらしく軽やかに楽しげな曲想で、最もよく親しまれているクラシック作品のひとつです。

### シュトラウスⅡ世／ワルツ『春の声』 作品410

「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス（1825-1899）は、同名の父ヨハン（1804-1849）と区別するため、シュトラウスⅡ世と呼ばれています。シュトラウス一家は19世紀後半のウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在でした。ワルツとは、18世紀後半に大衆の間で始まった3拍子の踊りの音楽です。この作品は春の喜びにあふれたワルツで、1883年に初演されたものです。

### 大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲

群馬交響楽団の本拠地である群馬県には温泉地が約100カ所あり、その中でも草津温泉は「日本三名泉」にも数えられる名湯です。草津温泉は高温であるため、お湯を冷ますために板でかき回して適温にする共同作業「湯もみ」が行われます。その「湯もみ」に合わせて歌われる民謡・作業唄が《草津節》で、1918年頃から歌われています。この《草津節》のモチーフを用いた楽器紹介曲を大橋晃一氏が作曲しました。

木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、各楽器を紹介しながら進めていきます。個々の楽器の音色とセクションのアンサンブルをお聴きいただけます。また《草津節》のモチーフがワルツになったり、ジャズアレンジに変身したりしますのでお楽しみに！みなさんには手拍子で参加していただきます。

### ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 ト短調

ブラームス（1833-1897）は、バッハやベートーヴェンと並ぶドイツを代表する作曲家です。ハンガリー出身のヴァイオリン奏者レメーニから演奏旅行中に教えてもらった音楽がきっかけとなり、2集21曲からなるハンガリー舞曲集を作っています。もともとは全曲ともピアノの連弾（1台のピアノを2人で演奏する）の曲として書かれていますが、多くの音楽家によって様々な編曲がなされている事からも人気が続きます。独特の音階とテンポの緩急に特徴がある音楽です。

### エルガー／愛のあいさつ 作品12

エルガー（1857-1934）は、19世紀から20世紀初頭にかけて活躍したイギリスを代表する作曲家です。有名な行進曲《威風堂々》をはじめ、交響曲や協奏曲、オラトリオなど、多くのジャンルに大作を残しています。その一方で、この《愛のあいさつ》のような、なんとも愛らしい小品も多く残しています。この曲は、エルガーが結婚する前年の1888年に妻となるアリスとの婚約記念に贈った楽曲です。結婚した年に自ら管弦楽用に編曲しました。その後、第三者によってさまざまな楽器のために多くの編曲がなされ、今日エルガーの作品のなかでも最も親しまれている作品のひとつとなっています。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

・選択A. ならびに校歌の合唱での共演は、日頃録音音源やピアノ伴奏で行われている合唱を、生のオーケストラの演奏とともに歌い一体となって一つの曲を創り出すことで、その違いを体感し、オーケストラの迫力や音楽の楽しみをより身近に感じてもらいます。

・選択B. の指揮者体験は、プロのオーケストラを指揮するという日常生活においては体験できない内容に触れてもらい、実際に音楽を動かすことや非日常のことに挑戦しやり遂げること、また聴く側には音楽に表れる個性、音楽が実際に動く様子や聴くことの楽しみを体感してもらいます。

・プログラム中の《草津節》の主題による楽器紹介曲では、民謡の独特なリズムを手拍子で参加、そして楽曲のクライマックスに向けて演奏とともに盛り上げていくことで、より一層オーケストラとの一体感を感じてもらいます。

・アンコールではシュトラウス I 世の《ラデツキー行進曲》の手拍子で参加して、指揮者の合図で手拍子を大きくしたり小さくしたり、止めてみたりと様々なパターンで楽しみながら参加することで、演奏会場全体でオーケストラと一体となってコンサートの締めくくりを飾ってもらいます。

### 児童生徒とのふれあい

ワークショップでは、直接演奏者と話しをしたり指導を受けたりすることで、児童、生徒さんとの交流を図ります。本公演においては、ワークショップの際に出演した演奏者を再度登場させることにより、演奏者（オーケストラ）をより身近な存在としてコンサートを鑑賞出来るよう進めます。

また、体育館という子供達にとって慣れ親しんだ身近なスペースにおいてコンサートを鑑賞してもらうこと、ステージと客席という区切りをつけず、児童、生徒さんがオーケストラと同じフロア上の至近に座って音色に包まれることで、親近感や一体感を味わってもらいます。そして音楽の繊細さや、オーケストラならではの圧倒的な迫力などを、目と耳と肌で体感してもらいます。